

March / April / May  
2023 No.22

A Newsletter from SCGO-JSOG Project  
on Women's Health and Cervical Cancer

# カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF  
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

## 小学校教員へ子宮頸がん検診を提供しました(2回目)

本事業では、事業計画にある活動 1-7「健康教育活動の評価を行う」ため、事業対象の小学校教員 1600 名をランダムに 2 群に分け、健康教育の提供時期をずらして活動を進めています。

2023 年 2 月に健康教育を提供した群の小学校教員に対して検診受診勧奨(ポスター掲示、グループチャットでの連絡)を行い、4 月 7-8 日に国立クメール・ソビエト友好病院と国立カルメット病院で子宮頸がん検診を提供しました。検診対象者(30 歳以上、既婚女性)402 名中 100 名の受診があり、健康教育を提供しなかった群と比べて、検診受診率は有意に上昇(24.9% vs. 12.0%,  $p < 0.001$ )していましたが、目標としていた 50%までは届きませんでした。100 名中 9 名(9.0%)が HPV 陽性であり、1 か月の間に 6 名がコルポスコピー検査を受け、臨床診断は 1 名が CIN 3、1 名が CIN 1、4 名が正常でした。

次回は 6 月にまだ健康教育を提供していない群に対して健康教育と検診を行う予定です。「より多くの女性に検診を受けてもらうために、健康教育時の質疑応答や検診登録の方法をもっと工夫したい」というカンボジア産婦人科学会(SCGO)メンバーの想いを受けて、一緒に準備を進めています。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 春山怜)



問診と検診検査の説明を行う助産師



婦人科診療をする医師



検体管理を行う SCGO 事務局ナレンさん

## SCGO 医師の第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会参加

5月12-14日、SCGO 医師2名が第75回日本産科婦人科学会学術集会に参加しました。国立母子保健センターのソバナラ医師は来日がかねわずオンライン参加となりましたが、“Concordance in high-risk HPV detection between self- and clinician-sampled HPV testing and acceptability of self-sampling in Cambodia”という演題の口頭発表を行いました。国立クメール・ソビエト友好病院のリンカ医師は、International Workshop for Junior Fellows (IWJF)への参加、英語講演の聴講、病院見学等を行いました。

Hi! I'm Koun Linka, OBGYN from Khmer-Soviet Friendship Hospital. This year in May, I participated in “The 75th Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology”. Although this was my third time visiting Japan, it still felt like the first time; very exciting and full of expectations to experience new knowledge. I had the opportunity to see great presentations conducted by Japanese and international speakers. I met OBGYN doctors from different parts of the world, from FIGO, RCOG and many talented doctors. I also had the chance to share our guideline and see other countries' guidelines on hypertensive disorder in pregnancy and see the difference.

The spirit of this conference was “kindness heart with skillful hands”. The main point to bring people to a healthy world is coming from the “kindness heart” of healthcare providers and this pushes us to keep updating and developing ourselves, to have skillful hands for giving better quality of care to our women. I hope I am able to keep learning and updating myself to help my country and my people more. I am so grateful to SCGO, JSOG, and JICA for giving me this great opportunity to join JSOG annual conference this year.



ソバナラ医師の口頭発表時の様子



リンカ医師が参加した IWJF の様子



黒田医師、リンカ医師、小田嶋医師

## 事業対象校 学校管理者への中間報告・経験共有会合を開催

5月25日、カンボジア産婦人科とプノンペン市教育局の共催で、事業対象80校の学校管理者(校長ら)に対してこれまでの活動および結果の中間報告を行い、各校で参加経験を共有する会合を開きました。

子宮頸がん検診に参加した教員数が多い学校では、管理者が掲示板に検診受診勧奨のポスターを貼るだけでなく、グループチャットをつくって関連情報を提供し、検診が無料であることや「自分の体を大事にしてほしい」といったメッセージを伝えるなど、検診への参加を奨励する工夫をしていることが分かりました。健康教育を受けた後、事業対象病院(国立クメール・ソビエト友好病院や国立カルメット病院)以外で、自費で検査を受けた人が少なからずいることも明らかとなり、次回の健康教育では検診登録を一緒に行うことを検討しています。

(国立国際医療研究センター国際医療協力局 神田未和)



事業対象校の学校管理者への中間報告・経験共有会合の様子



報告会の準備を行う SCGO 事務局パティさん